

令和元年 9月26日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題	津和野栗産地再生に向けて第2期プランを検討開始 ～5年間で平地への新植 5.3ha!!水田の有効活用進む～
-----	--

(ダイジェスト)

9月4日から津和野町と吉賀町の特産品である「栗」の出荷が始まりました。ピーク時には100tを超えた出荷量も、高齢化や近年の異常気象、獣害(サル等)などにより平成27年以降は10tを下回り、本年産も更なる減少が予想されています。主産地の津和野町では平成27年度に栗産地の再生、「つわの栗」のブランド力強化を目的に「津和野栗再生プロジェクト推進協議会」を設置し、商品開発や地産地消、生産力強化を行ってきました。5ヶ年計画の最終年となる今年、活動の振り返りにあわせ、第2期プランの検討が開始されました。

「津和野栗再生プロジェクト推進協議会」では、商工会や地元お菓子業者、町等関係者が連携し、商品開発や町内外へのPR・イベントの開催、生産力強化のための新たな技術導入と栽培研究会の設立、新植・補植等の推進に向けた苗木代助成等行ってきました。

また、平成30年度には、県の園芸型高収益作物導入実践支援事業を活用し、水田における排水対策等地域におけるモデル園を設置するなど、傾斜地栽培から平地・水田への新植の推進(5ヶ年で5.3ha)を図ってきました。

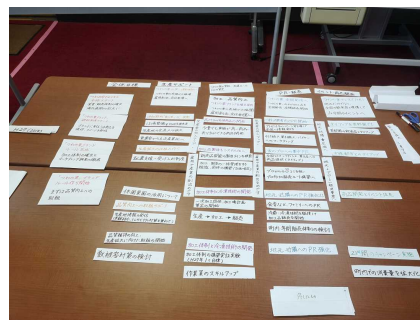
本年、このプロジェクトが最終年を迎えるため、ワーキングチームによる活動の振り返りと残された課題、新たな取り組み提案等ワークショップを行いました。

目標として、生産者・生産量の増加、農家所得の向上、商品開発、津和野栗ファンの増加、プロへの食材提供と流通を掲げ、①加工・新商品開発、②冷凍・冷蔵を活用した町内外への流通、③園地継承・獣害対策等生産強化を3本柱として検討していくことになりました。

普及部としては、水田活用促進、獣害対策等生産性向上に向けた支援の他、GAPの取り組み推進や担い手対策等産地の将来を見据えた産地ビジョンづくりの提案など、このプロジェクトが更に発展し、売り方・作り方から新たに担い手確保まで協議できる場となるよう引き続き支援していきます。



水田への新植(実証ほ)



P/Jワークショップ